

「東日本大震災」の風化に抗する取り組み

被災地の姿を継続して伝える

ドコモ本部

ドコモ本部

〒107-0052
東京都港区赤坂2-4-5
国際赤坂ビル19F
☎03-3582-9381
☎03-5114-5444



富岡駅周辺の様子



津波で破損したままの住居



夜ノ森駅付近の線路

ドコモ本部は、「『東日本大震災』の風化に抗する取り組み」として、現地取材による統一記事の分会ニュースを継続して編集・発行している。12月19日に取材した「原発20キロ圏内の町・富岡町のいま」を伝える。

休止中の2つの駅

双葉郡の中心にある「富岡町」は、震災から5年半が経過した現在、避難指示区域に指定されているが、放射線量が高い帰還困難区域を除き、2017年4月1日に避難指示を解除する意向が政府から示されている。取材班は、町内を走る常磐線（現在は休業中）の富岡駅と夜ノ森駅に向かった。

かつて富岡駅があった場所は、駅の土台のコンクリートだけが残っており、商店街や住居、倉庫のあった駅周辺はさら地となっている。除染した放射性物質を詰めた黒い袋（フレキシブルコンテナ）が山積みされ、残された住居や倉庫などの建物は、津波で破損したままだ。

取材班は、富岡駅周辺が、津波に



帰還困難地域に設置されたバリケード



岡内東児童公園にある被災したパトカー

より町を失い、原発の放射能の被害で復旧の機会を奪われてきたことを目の当たりにした。

次に向かった夜ノ森駅も震災と放射能被害により、現在は営業を休止している。線路は富岡駅と同様に復旧工事中ではあるが、駅周辺は雑草が生い茂り、静かに眠っているようだった。

夜ノ森駅周辺には、帰還困難区域に指定され、立ち入り禁止バリケードが施されている場所もある。線量計で放射線量を測定すると、除染指示の基準値よりも高い数値が確認できる場所もあった。4月1日の避難指示解除に向け、帰宅する住民にとってはいまだに不安が残る状況であることを体感した。（7面に続く）

7面には現地取材に参加した分会執行委員の感想を掲載。

組合を知ってもらうために試行錯誤

サポート分会 交流活性化の取り組み



サポート分会 竹内陽介さん

【サポート分会】サポート分会では、組合員同士の交流を活性化させ、組合活動への理解をより深めてもらうために、レク活動に力を入れています。今回はそんなサポート分会のレク活動をいくつか紹介します。

～異業種交流会～

高島屋、武田薬品、ドコモサポートの3社で異業種交流会を実施しました。参加人数は94人！最初は皆が緊張していましたが、会が進むと緊張もほぐれ、終盤はどこも大いに盛り上がり、大盛況のうちに幕を閉じました。



多くの参加者から「他業種の人の働き方について話を聞き刺激を受けた」など、大絶賛の声をいただきました。

～サポート分会 in 猫カフェ～

サポート分会の猫好きたちが猫カフェに集結し、猫ちゃんを愛でる会を実施しました。猫カフェには12匹の猫ちゃんが在籍。いろいろな種類の猫ちゃんと戯れたり、猫ちゃんの好きな所を語り合ったりしました。

このようにサポート分会ではさまざまなレク活動を通じて、組合員同士の交流を深める機会を作っています。これらの取り組みにより、多くの組合員が活動に参加し、分会活動の活性化につながります。これからもサポート分会ではいろいろなレク活動を企画していきます。（竹内陽介通信員）



My Photo Album

Vol.259

笑顔はしげる収穫体験



わが家では、子供たちを野菜好きにするため、週末は野菜の収穫体験によく出かけます。

絵本の『おおきなかぶ』さながら力をあわせて採った時や、土の中や葉にいる生き物に大はしゃぎする時に、子供たちの表情は、大自然に負けないくらい、生き生きとします！

畑で収穫した新鮮な野菜は、スーパーの物とは味も日持ちもまったく違います。娘の野菜嫌いはまだまだ直りませんが、親子ともども大満足の休日の過ごし方です。

九州総分会 松嶋 悠佳さん

赤坂点猫

最近、職場から「プレミアムフライデーはどうするの？」との質問をよく受ける▼由来は、アメリカの小売業界が、感謝祭（11月の第四木曜日）の翌日に在庫一掃セールを行ない、年間最高売上日となる「ブラックフライデー」（黒字の金曜日）からだ▼日本では、毎月末金曜日に設定し、百貨店や飲食店、旅行会社などがイベント等を企画。経済界も「働き方改革」の一環として有給休暇の取得促進を進めているとのこと▼休暇取得率ランキングは上位であるドコモの場合も「消費喚起」の観点で検討すべきかと考える。（単身パパ）